

子どもの声を聴くということ ～子どもの権利条約とエンパワメント～

講演：吉永省三さん

〔国連 NGO 子どもの権利条約総合研究所顧問〕

子どもの権利条約の成立と
日本の批准後 30 年の経過
～学校教育の現状を視野に～

10月9日(木)

18:30 開始

PLP 会館・4F 中会議室

大阪地下鉄扇町駅 4 番出口から南東約200m

JR 天満駅から南約500m

※参加費：300 円



1977年から兵庫県川西市で
中学校教員17年。荒れた中学校
での子どもらとのかかわりから
「子どもの権利」と出会う。94年
から市教委事務局主幹、子どもオ
ンブズパーソン制度を設計、99年
創設。06年千里金蘭大学教授、
22年退職。著書：『子どものエン
パワメントと子どもオンブズパー
ソン』共著：『子どもの相談・救済と
子ども支援』

不登校生の数や10代の自殺者の数が年々増えています。学校にいると息がつかまるという声もよく聞きます。こんな学校の現状は変えていかなくてはなりません。その手がかりは、子どもの権利条約にあるのではないか。子どもの声を聴くことから始めるべきではないか。そんな問題意識で、吉永省三さんの講演会を企画しました。吉永さんは、中学校の教員としての経験から「子どもの権利」を土台にして学校で起きる問題にかかわる川西市「子どもオンブズパーソン」の立ち上げを主導され、その後も大学教員として、学校を変えるために子どもの権利条約について研究を深めてこられました。

D-TaC は、「現在の『君が代』指導は『教育』ではなく調教だ」「『君が代』強制は『子どもの権利条約』違反だ」と訴えてきました。子どもの声を聴くことから始める「君が代」強制反対運動を考えていきたいと思っています。

ぜひ多くの方々と学びあいたいと思います。

